

児童・生徒の現状・課題

決められた課題やテーマに対して、意欲的に取り組むことはできる。しかし、自ら進んで取り組むことや、自分にとって必要なことを考え、どのようにすれば解決できるか考えることを苦手としている。また、自分自身を捉える力が弱く、意識と実際の能力に差が見られる。



学び続ける力を育むための重点目標

○学び続けることができるように、課題の設定・学習環境の選択・次の学習に繋がる振り返りの3つの観点を重視して学習に取り組むことができるようにする。



具体的な手だて①

課題の設定(学習の導入)

単元の内容を確認した上で、児童からの疑問を集約し課題を作ったり、目指したいゴールを設定したりする時間を作る。

具体的な手だて②

学習環境の設定

課題解決のために、必要な場や資料、学習のグループのパターンを設定し、児童に選択させながら学習を取り組めるようにする。

具体的な手だて③

適切なふりかえりの設定

個人の振り返りでは、ワークシートに書いたり友達同士を交流させたりしながら、学年や単元に応じて振り返りの観点を設定し、自らの進捗状況を確認できるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・週案に重点項目で取り組む内容と日時を記載し、全体に共有し、自由に授業を見合う時間を設定する。
- ・共有フォルダを作成し、汎用性があるデータなどを保管し、職員全体で使用できるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	64%	80%	78%
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	84%	90%	94%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	74%	85%	88%
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、どうすればよいかわ、児童が選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	83%	90%	89%

総括(5月)

目指す授業像がこれまでと大きく変わり、教員が全体を常に先導するわけではなく、学習資料や環境を設定し、ある程度児童にも委ねながら、サポートをしていく立場にもなるという授業の進め方に、教員自身に難しさや抵抗感がある。そこで、今年度は、日々の授業の中で、学習課題の設定・学習環境の設定・ふりかえりの設定の3つの視点を重視し、それぞれの設定を選択させることで、児童自身が学びの主役になれるような授業作りをしていくことにした。

総括(1月)

教員が、全学年を通して、児童に学びを進めさせる授業計画をかなり意識できるようになった。その中で、各学年において、学習経験の積み重ねやICT操作の経験など、段階的に高めていく必要があるという課題も見えた。次年度に向けて、低・中・高と、学びの段階表となる指標を作り、系統性を持たせながら取り組んでいく。